

令和5年度初任者研修及びスーパーティーチャーによる 1人1台端末を活用した授業公開研修

～伊万里市立二里小学校スーパーティーチャー 岩永亜希 教諭による授業実践～



単元名 How is your school life?
(NEW HORIZON Elementary English Course 6 Unit2)

本時の目標 日常生活について聞いたり、答えたりしよう。(本時7/8)

展開

導入

1. Opening Songで英語表現を楽しみながら声に出す。

2. Crisscross Gameで、歌詞についての質問に答える。

3. 本時のめあてを知る。

展開

4. 「メトロラーニングチャレンジ」を行う。

活用ポイント①
【学習者用デジタル教科書】

5. 「自分の声を文字にしよう」を行う。

活用ポイント②
【Wordの音声入力機能】

6. グループでSmall talkを行い、友達とお互いの日常生活についてのやり取りを行う。

まとめ

7. 振り返りワークシートに、今日の授業の中で心に残った英語表現を書く。

活用ポイント①
活用ポイント②
について、次のページで詳しく紹介します。



←「SAGA Eコネクト」サイトではたくさんの事例を紹介しています
<https://www.saga-high-school.jp/e-connect/>

本時の展開 4. 「メトロラーニングチャレンジ」を行う。

活用ポイント①

「メトロラーニングチャレンジ」とは、**1人1台端末**を活用して、**学習者用デジタル教科書**の映像を個別に視聴し、児童が英語表現を1人で発話ができるようになったら、指導者の前でパフォーマンスをする活動です。



- 児童のペースに合わせた「**個別最適な学び**」の時間。
- この2人の児童は、ある程度1人で言えるようになったら、交代交代で英語表現を発話し始め、自然と「**協働的な学び**」へつなげていました。



- 待っている間は、**友達と発音の確認をする姿**が見られました。
- 自分の進捗状況を黒板で確認する姿**も見られました。
- 子供達1人1人が**主体的に学びを進めて**いました。

本時の展開 5. 「自分の声を文字にしよう」を行う。

活用ポイント②

Wordの音声入力機能を使って、児童が伝えたい英語表現を端末に向かって繰り返し声に出し、**その声を端末の画面に文字化させる**活動です。児童は楽しみながら無理なく英語表現に慣れ親しむことができ、繰り返し発話したことで授業後半の言語活動において、その学びが生かされます。



子供達は一生懸命、粘り強く、端末に向かって英語を話していました。



公開授業後の岩永先生による「1人1台端末を活用した指導事例紹介」の様子



参加者のアンケートより

- ・音声の文字化など、自分では思いつかないような活動がたくさんあり、とても参考になりました。
- ・ICTが授業の中でどのように組み込まれているのか、それによって子どもたちにどんな良いことがあるのかを知ることができました。
- ・子ども達がどんどん英語を話していて、驚きました。